ガレリア
GALERÍA
CERÁMICA
セラミカ

Press
Release

INAXガレリアセラミカは“新鋭作家による新しいやきものの表現の場”として企画展を開催しています。

根本裕子　展

―陶　幻視のいきもの―

◆会期＝2009年10月7日(水)～11月2日(月)
◆休廊日＝日曜･祝日
◆開館時間＝午前10：00～午後6：00
◆作家によるアーティスト･トーク開催＝10月7日(水)　午後6：30～7：00
◆会場＝INAXガレリア　セラミカ
　　東京都中央区京橋3－6－18　INAX：GINZA2F　TEL03-5250-6530
◆企画･制作＝株式会社INAX
◆入場無料
◆INAX の文化活動ホームページアドレスhttp://www.inax.co.jp/culture/

「イムヌスの為の出演者―1」 400×500×300mm　2009　撮影：姜哲奎
※画像をご希望の方は、メールにて画像データを送付いたしますのでお申し出ください。
【メール】e.ohashi@i2.inax.co.jp　【担当】大橋恵美

◆次回予告◆
出和絵理展
2009年11月6日(金)～12月1日(火)

INAXガレリアセラミカでは、**根本裕子（Nemoto Yuko）展 ―陶 幻視のいきもの―** を開催します。(2009年10月7日～11月2日)

根本裕子の作品は、陶でつくられた想像上の動物たちが、不気味でユーモラスな独特の風景をつくり出すインスタレーションです。
幻の動物たちは1mほどの大きさで、薄っすらと滑るような淡褐色の弛んだ肌合いをして、犬や豚やトカゲが混じったような不思議な体型で四本足のようです。顔はトドや犀のようなイメージですが、黒い瞳が見開かれ、どこか哀愁を帯びています。口から覗くとぽっかりとした暗闇が尻尾まで開いているのが見えます。生きものなのに、その洞窟のような空虚さに思わずどきっとします。

近未来のミュータントのような動物たちは、ひととき命を繋いでいるだけの寄る辺無さを漂わせ、どこか別の存在に支配されているような不安を感じさせます。その独創的な表現は秀逸で迫力があります。

根本は今年大学院を終了したばかりの若手作家です。大学から陶芸を始めて6年目。陶芸技法を身に付ける月日の後、修了制作で初めて今展のような作品をつくりました。手びねりで土を積み上げてつくっていた壺が、有機的なフォルムを見せるようになり、120cmもの高さになった時、イメージとして動物の足となり動き始めたのだと話します。
また、大きな口から手を差し入れて壺の内側をつくっている時に、流していた音楽が反響して耳に届き、その心地よさに音を感じさせるような作品をつくりたいと考えました。

今展の作品のタイトルは「イムヌスー王の隊列はすすみ」というものです。「イムヌス」はグレゴリオ聖歌の一種で、その歌詞に「動物たちがヨタヨタと進む」という件があり、根本はその偶然の一致からこのタイトルを選んでいます。

会場に鳴り響く、聞こえない賛歌。それに合わせて歌う根本の不思議な動物たち。
今展は東京での初め個展となります。その世界をぜひ会場でご覧下さい。

「根本裕子プロフィール」
1984　福島県に生まれる。
2007　東北芸術工科大学工芸科陶芸専攻卒業
2009　同大学　大学院工芸領域陶芸専攻修了

主な展示
2007 「温土℃」SPACE/ANNEX ・東京
　　「窖～あながま～」 大沼本店ギャラリー・山形
2008 「桜梅桃李」 蔵、ダイマスギャラリー・山形
　　「中日韓現代陶芸新世代交流展」 中国広東石湾陶磁博物館 ・中国